

電子書籍化  
決定！



アート専門出版社



artdiver.moo.jp

現代アート探偵ゼロロイヤルコースの事件簿

# 銀髪の賢者と油之牝狗

ぎん ぼつ けん じゃ あぶら の びっち

オルタナティブ人形劇団

著：劇団★死期

岡田裕子・松下学・阿部謙一

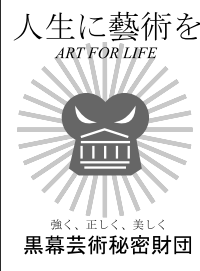




# 藝術新聞

X月XX日 藝曜日

号外



## 女美大生惨殺

### 《無限の律動》の謎 快楽犯の劇場型犯罪か？

### 現場に72の凶器

本日早朝、エンコージ駅近くのマンション屋上に、都内の美術大学に通う山田房子(さん)18)の変死体が見つかった事件で、先ほど、スギナミ警察署エンコージ分署は、殺人の疑いで捜査を進めていることを発表した。記者クラブ所属の大手下ゴミ全社にすでに流出済みの捜査資料によれば、死亡推定時刻は本日未明。早朝、マンション管理人によって発見された遺体には無数の傷跡が確認されたが、死因はまだ特定されていない。現場には多数の物的証拠が残されており、屋上を通じるドアの入り口には《無限の律動》という謎のメッセージが残されていたという情報もある。

守秘義務という概念のない警察関係者によれば、エンコージ分署は手帳にノルマを達成できる駐車禁止と一時停止違反、そして自転車の道路交通法違反の取り締まりに忙し、明らかに手間のかかりそうなこの事件を、当初は最近流行のエクストリーム自決として処理しようとしていた。しかし、セキュリティ意識の低すぎる警察の機密情報保管サーバに不正アクセスした違法意識の低すぎる新聞記者がそのサーバから盗み出した事故現場の写真をインターネットの巨大匿名掲示板と短文投稿サイトに自慢げに投稿したところ、瞬く間に画像が拡散。さらに、インターネットの巨大掲示板のスパイハッカーにより、新聞記者の社用PCに無断インストールされたファイル共有ソフトウェアから事件の全容を示す画像・文書資料が流出する事態となっている。

情報が漏洩を受け、新聞社は「むしろ我が社がハッキングの被害者」と公式にコメントし、情報を流出させた記者が「五月蝋い無教養な貧乏人ども、俺は高学歴・高収入の新聞記者様ぞ」と一ツヤルネットワーキングサイトで反論したところ、ネット炎上は燃油を注ぎ、瞬く間に事件が広く一般に知られることとなった。

ネット上で炎上した事件に便乗するかたちで、女子学生が被害者となった猟奇殺人の報道キャンペーンで大いに盛り上がりつつあるというマスコミ各社の意向と、その際に増税や労働規制緩和や集団の自衛権の解釈拡大など庶民を苦しめる法案を密かに通過させたい政府の意向が一致し、腐敗した社会権力の圧力に対して誰一人抗えない同業者は殺人事件に切り替えて捜査を開始した。

捜査本部には名前だけの者も含めて総勢数百名が招集され、巨額の経費が充てられているが、馴染みの定食屋やスナックで機密情報を漏らしまくる警官によると、実際に捜査に当たっているのは、署内でエンコージ分署のシリアル・マムキラーを自称する素行に問題のある刑事一人であるという。



捜査担当のガイコツ刑事。「明日から本気出す」と意気込みを語る

友人「学校では変人で有名」  
また、「エタを拾うまで帰ってくるな」という命令を受けたマスコミ産業底辺の使い捨て社畜軍団が山田さんの通う美術大学に無断侵入し、

### 専門家「アニメが悪い」

若く美しい将来有望な芸術家の卵の未来を無残にも奪ったこの数多くの奇妙な謎に包まれた犯行に對して専門家たちの意見も割れている。女性問題に詳しく中野トチ子氏によれば、エロゲームとエロアニメと児童ポルノの影響で発生した犯罪であり、犯人像について「ゆとり世代男(ロリコン)男、ニート男、無職男、とにかくヘトコ」と分析している。一方、現代若者文化の意見番である社会学者の蛙田ケルモ氏によれば「現代社会の軋みが生んだ(社会そのものの悲鳴)であり、犯人像の追求よりも『オタマン・ヤクン』症候群に喘ぐ若者世代からのSOSとして理解こそが求められている」という見解が出されている。また、事件捜査のプロである警察OBのシェパード山氏のプロファイリングでは想定される犯人像は考えうるあらゆる可能性を網羅しており、「逮捕はすでに秒読み段階」であるという。

### 探偵「鍵は芸術にあり」

そして、謎の金髪ツインテール美少女による未確認情報によれば、現代アート探偵ゲンダイチコースケを名乗る私立探偵が独自捜査を進めており、「事件の鍵は芸術にあり」と明言しているという。

消息筋によれば、アート専門出版社のアートダイバーより2015年8月刊行予定の現代アート探偵ゲンダイチコースケの事件簿「銀髪の賢者と油之牝狗」の賢者と油之牝狗「オルタナティブ人形劇団」(劇団★死期)岡田裕子・松下学・阿部謙一著)によってすべての謎が明らかになるといわれており、同書の完成が待たれる。

基本的な人権のプライバシー権を同じく基本的な人権の「知る権利」で蹂躪しながら掻き集めたゴシップ情報によると、山田さんは美術大学の油画科に入学するために地方から熱い希望を胸に抱き、東京のエンコージへ上京し、学内では「みるくちゃん」の愛称で知られていた。比較的裕福な家庭で育ち、充分な仕送りに受けて、とくにアルバイトなどせず真面目に大学へ通うことが普通の学生だったが、アーティストとしての未来を案じて焦りを感じていたという同級生たちの証言も多い。躁状態で喋り続けたと思えば、突如「びつぐなあーいす」といふならなきやと泣きだすなどの不安定な言動も見られたという。

## 「現代アートは難解すぎて……」？ もうそんな弱音は吐かせない！

各地で伝説の公演を繰り広げてきた岡田裕子・主宰のオルタナティブ人形劇団「劇団★死期」が推理小説になって待望の書籍化！

# 第1位

## 銀髪の賢者と油之牝狗

現代芸術推理小説部門 ※アートダイバー調べ

著： 岡田裕子・松下学・阿部謙一 (主宰＝岡田裕子／顧問＝会田誠)

現代美術史日本篇 1945-2014 中ザワヒデキ 著

20世紀末・日本の美術 それぞれの作家の視点から 中村ケンゴ 編著

わかげさまで大好評 アート専門出版社 ART DIVER 既刊書籍

「とても満足した。現代アートのすべてを悟ることができた」 (M.M.さん・男性・翻訳者)

「人形劇だから許されるだいたい合ってる感がサイコー！」 (K.A.さん・男性・美術書籍編集者)

「この本で息子にアートの英才教育をしてみようかしらね」 (H.O.さん・女性・アーティストノ一児の母)

「時代のニーズに応える一冊。目指せ大反響50万部！」 (E.H.さん・男性・アート専門出版社代表)

※利用者の感想です ※本書関係者の希望です ※広告の表現です ※効果には個人差があります ※アートダイバー調べ

書籍版好評発売中 | 電子書籍化決定  
ISBN 978-4-908122-02-6 定価1600円(税別)  
お求めは全国の書店・ネット書店またはアートダイバーWEB等にて  
<http://artdiver.moo.jp/?p=1143>